2026 年 9 月 30 日
大阪緑涼高等学校
校長　好永　保宣

令和 7 年度　大阪緑涼高等学校　学校評価

1.目指す学校像

【1】建学の理念に基づく教育
(1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」と 4 つの柱を念頭に、自校教育と心の教育を行う。
(2) スクール・ミッションに沿った教育活動を具体化・体系化し、生徒や保護者及び、地域への浸透を図り、安定した入学生徒数を確保できる学校を目指す。
【2】学科・コース・系統の取組み
(1) 各コースがスクール・ポリシーを基に、コース委員会を中心に 2024 年度完成の教育課程表に基づく教育活動を具体化し推進する。
(2) 各コース・系統の過去の教育活動を総括し、スクール・ポリシーに沿った体系化がなされているかを検証し、新たな取組みに繋げる。
(3) コース・系統の再編成を、週 5 日制の導入を想定して検討を継続する。

2.中期目標

学習指導領域
【1】生徒の学習状況
(1) 教科会を活性化し、定期考査後のデータ分析による学習状況の把握を行い、以後の授業に反映する。
(2) 授業内に確認テスト等を行い、生徒の学習状況を把握する。
(3) 入学後のリメディアル教育、学力不振生徒の考査前の学力補充の体制を検証し、継続して実施する。
(4) 合理的配慮を必要とする生徒理解の研修及び、教務内規の改訂作業を継続する。
【2】教科・コースの教育活動
(1) 授業内容を精選し、授業規律を徹底する。
(2) 日常の授業を大切にする姿勢を教員・生徒が共に養い、チャイムと同時に授業を開始する習慣の定着や、出張等で生じる自習授業を時間割変更で削減する。
(3) 各種検定の合格という成功体験が自己肯定感につながるということを教員が強く認識し、コースや学年の教員が積極的に支援を行い、合格率向上を目指す。
(4) ICT 機器を授業の効率化や生徒のモチベーションを高めるツールとして利用することに留まらず、リモート授業やグループワークにも活用し、個別最適な学びと協働的な学びの教育活動に繋げる。
(5) タブレットの利用を含め、導入済みの Classi やスタディサプリの利用を、教科、教員の偏りが出ないように、積極的に組織的な活用になるよう進める。
(6) 総合的な探究の時間のカリキュラムの充実に向けた検討と実践を行う。高校企画室主導で実施の三高校合同海外語学研修プロジェクトに積極的に参画し、生徒の国際教育充実に向け検討を行う。

生活指導領域
【1】基本的生活習慣の確立、規範意識の育成
(1) 教職員全員が協力して生活指導を行う意識を徹底する。
(2) 行事、集会などの機会を通じて、指導方針や校則を伝え、問題事象が起きないよう「予防的」な生活指導を行う。
(3) 校則遵守を徹底し、頭髪指導・身だしなみ指導の強化を行う。
(4) 「挨拶」の大切さを説き、様々な場面で挨拶の励行を勧める。
(5) 目標値を設定し、遅刻指導を行い、登下校指導を計画的に実施する。
(6) 生活指導週間を設定し、頭髪、身だしなみなどの違反ゼロを目指す。
(7) 交通安全指導や性教育、薬物乱用防止など危機管理にかかわることやスマートフォンの安全な利用などのマナーにかかわることの講演等を行う。
(8) いじめの対応に向けて、学期ごとに全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見と解決に繋げる。
【2】帰属意識の高揚
(1) 生徒会を中心に、弁論・コーラス大会、緑涼祭などの行事を、生徒の企画・運営で実施する。
(2) 課外活動が活発に行えるよう、生徒会を中心にクラブ入部率を高める活動を行う。
【3】不登校生対策
(1) 不登校生等委員会を中心に不登校生や発達障害について生徒理解を深めていく。
(2) 1 学期中間考査期間中に、身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。

進路指導領域
【1】進路意識の高揚と進路実績の向上
(1) 1 年次よりキャリアデザインマップを活用し、総合的な探究の時間やホームルーム活動を利用してキャリア教育や進路学習を確実に行う。
(2) 調理製菓科・普通科保育系進学コースには、インターンシップや保育体験などを積極的に取り入れる。
(3) 国公私立大学の専門学科推薦制度について周知し、一般選抜での受験にも積極的にチャレンジできるよう、進路相談や受験対策を行う。
(4) 就職を専門とする講座等を開設し、生徒に受講させ意識を高めるとともに、求人先の開拓を進め、多様な業種・事業所から選択できるよう努める。
(5) 大学入学共通テストについての分析を行い、教科、校務分掌、コース会議で対応を進める。特に、「情報Ⅰ」については、出題傾向などを精査し授業内容に反映させる。
【2】系列大学及び協定校との連携強化
(1) 大阪商業大学、神戸芸術工科大学の特色や魅力を高大連携の小論文講座やキャンパスツアー等で早期に伝え、系列大学を進路選択の柱として位置付ける。
(2) 協定校による特別授業の実施等を通して、各大学の特色を知ることで、進学実績の増加へと繋げていく。

入試・渉外領域
【1】広報活動の強化
(1) 全教職員で募集活動を行うという意識を持つ。
(2) 本校の教育成果を来校者に伝えるために、募集行事に在校生を積極的に参加させる。
(3) オープンスクール・入試説明会の充実を図り、短時間でも本校の魅力が伝わるような工夫を行う。
(4) 南河内・中河内を中心に、近鉄南大阪線沿線の大阪市南部・奈良県中南部の中学校・学習塾にも積極的に訪問活動を展開する。
(5) 大阪商業大学・神戸芸術工科大学の系列校であることのスケールメリットを周知する。受け入れ授業・出前授業の機会など中学校との接点を多く作り、信頼関係構築に努める。
(6) 塾対象説明会の実施や塾訪問の機会をつくり、塾との信頼関係構築に努める。
(7) 近隣だけでなく広範囲の中学校に、スポーツ特待生制度・クラブ奨学生制度を周知し、志願者増加につながる募集活動を実施する。
(8) 学校案内・HP・SNS・ポスターなどで本校の魅力、各コースの取組みや進路実績を伝える。
【2】専願受験者の確保
(1) 各コースの特徴的な教育活動をアピールすることで専願志望者 200 名を目指す。
(2) スポーツ特待生制度・クラブ奨学生制度を利用して、スカウティングに注力する。
(3) 普通科保育系進学コース及び調理製菓科の充実した施設・授業内容を説明し、専願志望者増を目指す。
(4) 特待生制度について、広報を強化すると共に、中学校へ丁寧に説明する。

教員の研修・研究領域
【1】教員の資質向上
(1) 時間講師も含めて全教員が行う公開授業を実施する。見学した教員のアンケートを教科担当者にフィードバックし、授業内容・方法の向上を図る。
(2) 夏期休暇中に全体研修会を実施し、教育力向上を図ると共に意識統一を図る。
(3) 外部の研修会への参加を積極的に勧め、参加後に研修会や教科会で報告し、情報を共有する。学校評価アンケート（生徒・保護者）の結果を教員一人ひとりが受け止め、適切な目標設定のもと自己研鑽を行う。
(4) 大学入試問題を分析し、指導力の向上を図る。
【2】教員組織
(1) 教育方針を共通認識し、全教員が協同して教育活動ができる組織を目指す。
(2) 教員が安心して働くことのできる環境づくりを行う。
(3) 学校行事や施策の責任の所在を明確にした上で企画・運営を行い、各組織が目的に沿った総括を行う。

［自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見］　アンケートの順に評価を作成・自己評価は肯定的意見 75%超を〇、50%以下を×とした。

<table>
<tr><th>［自己評価アンケートの結果と分析(令和８年１月・３月実施分)</th><th>学校評価委員会からの意見</th></tr>
<tr><td>

〇あなたは本校に入学してよかった・子どもを本校に入学させてよかった

アンケート集計１	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	65.0%	80.1%	67.9%	73.7%
中間的意見	22.6%	16.7%	22.1%	22.2%
否定的意見	12.4%	3.2%	10.0%	4.1%

生徒の肯定的意見が減少し、否定的意見に移行している。一方で、保護者は、肯定的意見が大きく増加している。保護者は全体的に満足度が上がっており、おおむね生徒の評価以上に本校を評価してくれている。
【自己評価△】

</td><td rowspan="2">保護者の高い信頼は日常的に丁寧で親身な教育を積み重ねてきた成果であり、本校一定の評価として定まってきている。一方で生徒の評価は否定的意見が増加している。学習に関する評価の低下や行事等に対する評価が低下しているが、行事やクラスでの日常生活で発生する人間関係のトラブルに悩んだり、基礎的な学力が不足し、授業についていけない生徒が増えるなど、自分の成長を実感しにくい生徒が増えていると言える。学習指導・進路指導・生活指導のあり様の検証と改善を行い、より多くの生徒が満足いく高校生活を送ることができるような学校であるよう、努力していかなければならない。</td></tr>
<tr><td>

〇学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている

アンケート集計２	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	56.4%	60.5%	57.1%	55.2%
中間的意見	31.0%	34.0%	32.9%	37.1%
否定的意見	12.6%	5.5%	10.0%	7.7%

生徒の評価が横ばいであるということは、一定、建学の理念や教育目標を日々の教育を通じ生徒に示していると考えることはできるが、十分とは言えない。
【自己評価△】

</td></tr>
<tr><td>

〇学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている

アンケート集計３	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	74.8%	87.9%	75.8%	81.0%
中間的意見	20.1%	9.8%	19.3%	14.9%
否定的意見	5.1%	2.3%	4.9%	4.1%

情報発信については評価されていると考える。特に保護者の評価が肯定的なのは、担任や企画広報部を中心に、さくら連絡網など様々なツールを用いて、量的にも質的にも積極的に発信している成果と言える。
【自己評価△】

</td><td>ホームページでの情報公開の回数、さくら連絡網による保護者向けの情報・連絡の発信、クラスルームを用いた生徒への発信等が、量的にも質的にも効果的に行えている。</td></tr>
<tr><td>

〇学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している

アンケート集計４	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	67.5%	73.5%	68.5%	59.7%
中間的意見	27.2%	22.5%	25.1%	34.0%
否定的意見	5.3%	4.0%	6.4%	6.3%

毎月の保健便りの発行と記事の適正化、カウンセラーからの文書、担任等による生徒の観察や聞き取りなどの対応による評価と考える。
【自己評価△】

</td><td>保健室からの情報発信や、保健室での活動、担任や学年団の生徒対応等を通じ、生徒は一定健康維持への支援を感じていると考えるが、そうした校内の活動が保護者に届きつつあると考える。</td></tr>
<tr><td>

〇教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している

アンケート集計５	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	69.5%	69.7%	72.7%	64.7%
中間的意見	24.1%	25.1%	21.1%	28.1%
否定的意見	6.4%	5.2%	6.2%	7.2%

生徒の中間的意見が増加しており、朝終礼において情報伝達等にとどまる部分があると考える。
【自己評価△】

</td><td>朝礼・終礼、ホームルームで担任が何をどのように伝えるか、生徒たちの声をどのように受け止めるかは、生徒指導やクラス作りをしていく上で非常に重要だが、前年度より連絡等に終わっている状況がある。今後さらに、生徒たちへの話し方、生徒たちの声の聴き方、クラスや生徒の状態を観察するまなざし、そうしたことへの教員の意識のあり様、そうしたことを複合的に検証し、中間的意見を肯定的意見に転じさせていかなければならない。</td></tr>
<tr><td>

〇教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている

アンケート集計６	2025 年度		2004 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	70.1%	74.1%	73.9%	68.8%
中間的意見	21.0%	21.9%	21.2%	26.7%
否定的意見	8.9%	4.0%	4.9%	4.5%

保護者は肯定的意見が増加しているが、生徒は肯定的意見の減少分が否定的意見に転じている。生徒の訴えに対し、十分に対応しきれていない部分が生じたためと考える。
【自己評価△】

</td><td>生徒の肯定的意見と中間的意見と合わせたならば 90%を超えているが、前年度より、否定的意見が増加している点は問題である。生徒が自身の相談に関し十分に聞いてもらえていないと感じる場面が生じていることの証である。一方、保護者の肯定的意見は微増であることから、保護者対応を含めた部分では評価できる。今後も相談を受ける際、生徒の思いをどのように、どの程度くみ取れているか、生徒が必要としているタイミングで応じることができているか、できない場合の対応等はどうか、より一層に自己点検し、改善していかなければならない。</td></tr>
</table>

○教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている

アンケート集計７	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	65.9%	60.5%	71.7%	61.1%
中間的意見	25.9%	34.9%	22.5%	31.2%
否定的意見	8.2%	4.6%	5.8%	7.7%

生徒は、中間的意見、否定的意見とも増加に転じている。一人ひとりの学力の実態把握の取組みとその結果をもとにした授業方法の改善が十分ではなかった。
【自己評価△】

生徒の肯定的意見が再び 65%となったのは、授業という場面における教員の創意工夫が一部生徒には合っていないと感じさせた状況であり、ICT の利用や学習の個別最適化を進めるなど、生徒の学力差に応じた授業や学習のあり様を検討、実践していく必要がある。教員各自の自己研鑽のみならず、組織的な体制を整えることで、より良い授業づくりを行っていく。

○教員は、英語検定や漢字検定など将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している

アンケート集計８	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	69.5%	69.7%	74.7%	66.5%
中間的意見	24.1%	26.8%	20.8%	28.1%
否定的意見	6.4%	3.5%	4.5%	5.4%

文理ハイレベルコースにおける英検対策授業や総合進学コースでの商業科の授業や放課後の補習、個別指導の実施など例年と同様の活動を行ったが、前年度より支援が少ないと生徒は感じている。
【自己評価△】

検定取得の有意・有効性について生徒に伝え、授業や朝学の時間を利用した学習活動、放課後の検定に向けた補習の実施等、様々な活動を行っているが、受検結果につながっておらず、この点から「十分な指導・支援」とは言えない。主体的に学習に取り組み、検定に臨む生徒の絶対数を増やすためにも、単なる情報提供にとどまらない、意識付けの在り方も検討し実行していかなければならない。

○教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている

アンケート集計９	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	69.9%	66.3%	73.8%	63.4%
中間的意見	25.2%	28.8%	22.1%	30.3%
否定的意見	4.9%	4.9%	4.1%	6.3%

他の学習領域同様、生徒については中間的意見と否定的意見が増加し、肯定的意見が減少している。教科単位、教員単位での様々な取組みが生徒の実態にマッチしていないと感じている。
【自己評価△】

「分かる授業」や放課後の学習活動等が基礎学力の定着と向上につながっていると生徒は一定評価しているが、中間的意見が増加している点はさらなる工夫を求めていることの表れだと考える。この評価が、アンケート７の評価に通じるものであり、授業の改善による学力の定着と向上の促進や放課後等を利用した学習活動への促しをより強力に進めていくことが最重要課題である。

○教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している

アンケート集計 10	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	71.0%	69.2%	73.4%	67.0%
中間的意見	23.5%	26.5%	21.7%	24.9%
否定的意見	5.5%	4.3%	4.9%	8.1%

生徒の評価はおおむね横ばいだが、保護者の否定的意見は大きく改善している。これは、進路指導において情報提供・指導において、担任が保護者に対し密に連絡を取りつつ始動した結果である。
【自己評価△】

生徒の肯定的意見が 70%を超えているということは、各科・各コースの生徒たちが自らの力で進路を決定できるよう、進路情報をきめ細かく提供し、粘り強く生徒の相談に応じてきたことが一定評価されたと考える。また、保護者との意思疎通、連絡をさくら連絡網などを通じ行っていった結果、提供された情報の質や量が十分だと感じてもらえたと考える。

○緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している

アンケート集計 11	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	71.7%	82.1%	74.2%	77.4%
中間的意見	20.6%	14.2%	20.0%	19.0%
否定的意見	7.7%	3.7%	5.8%	3.6%

緑涼祭や弁論・コーラス大会等、各種行事に生徒主体で取り組めるよう、担任・学年を中心に取り組んだ結果である。
【自己評価△】

各種の学校行事やクラブ活動、生徒会活動は、生徒たちに充実した高校生活を保障し、生徒の成長を促すうえで極めて重要であり、これらの活動をいかに担保し、活動機会を設定・維持していくことが大切である。肯定的意見が、生徒は、71.7%、保護者は 82.1%ということから、充実していると一定評価できる。これらは、教員と生徒との関わりや生徒自身の充足感を、活動を通じ感じることができたからと考える。今後も行事に取り組むこと自体を目的とするのではなく、行事を通じて何を学ばせるのか、その為にどのように取り組ませるのか、生徒に対する声掛けはどうしていくか、担任・学年団による仕掛けは必要であり、この点において常に点検・評価し、取組み方を検討・実行する必要がある。

○教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している

アンケート集計 12	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	62.6%	60.8%	67.9%	54.3%
中間的意見	30.3%	32.6%	26.3%	38.9%
否定的意見	7.1%	6.6%	5.8%	6.8%

生徒の肯定的意見の減少は、教員の指導が十分だと感じられないからだと考える。
【自己評価△】

○学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている

アンケート集計 13	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	71.9%	66.3%	68.5%	57.9%
中間的意見	20.1%	26.8%	21.4%	28.1%
否定的意見	8.0%	6.9%	10.1%	14.0%

生徒に納得のいく丁寧な説明をしつつ、指導を行うという姿勢について、一定の評価を得ていると考える。しかし、今後も教員個々の指導の仕方も含めて改善を進める。
【自己評価△】

学校生活の基本である遅刻や身だしなみ、頭髪等について指導への理解は定着してきており、教員間の基準や指導のタイミングも一定共有され、生徒たちへなぜその指導を行うのかについての説明を行ってきた結果だと考える。今後も、より一層丁寧で粘り強い指導が求められている。

○学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている

アンケート集計 14	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	65.2%	59.1%	65.9%	44.8%
中間的意見	27.7%	34.0%	27.2%	44.8%
否定的意見	7.1%	6.9%	6.9%	10.4%

生徒評価はほぼ横ばいだが、保護者の評価が大幅に改善した。相談への対応や本校の取組みが保護者に伝わった表れと考える。今一度、アンケート実施後の連携体制強化と迅速な対応の重要性を全教員の共通理解としていく。
【自己評価△】

担任中心に学期ごとのいじめアンケート結果と日常的な生徒の動向を把握し、その萌芽に気づき、適切な手立てをとることで、いじめなど深刻化する前に対応していることが、この評価につながっている。特に保護者の評価が大きく改善したのは、いじめアンケートといったスポット的な取組みだけでなく、日常の様々な場面において、教員が生徒、保護者に対し丁寧に対応してきた結果だと考える。今後とも、人権に対する意識を十分に持ち、生徒・保護者に対応するという活動を、今まで以上に取り組まなければならない。

○学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している

アンケート集計 15	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	67.2%	54.8%	69.5%	46.6%
中間的意見	26.8%	39.2%	25.8%	48.0%
否定的意見	6.0%	6.0%	4.7%	5.4%

生徒の評価は、日々の教育を通じ人権についての意識高揚が一定は図れている結果と考えられる。今後、まずは中間的意見が減少するよう日々の教育を行う必要がある。
【自己評価△】

各学年とも年に数回の人権学習を実施する一方で、教員も人権にかかわる研修を受講するなど、日々の教育を通じ人権についての意識が高まるよう取り組んできた結果と考える。

○学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している

アンケート集計 16	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	67.3%	64.0%	69.7%	57.9%
中間的意見	25.4%	32.0%	25.3%	37.1%
否定的意見	7.3%	4.0%	5.0%	5.0%

生徒の評価は、ほぼ横ばいだが、保護者の評価が改善されたものとなった。しかし、施設設備の整備等を進める必要がある。
【自己評価△】

生徒にとっては、大きな支障を感じていないし、環境やルールについては評価をしていると考える。しかし、施設・設備の老朽化等に対する対応や、男子生徒の増加に伴う使用方法の変化（これまでのようには丁寧に扱えない）ことなどを考慮に入れた整備等が必要と考える。

○学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている（総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等）

アンケート集計 17	2025 年度		2024 年度	
	生　徒	保護者	生　徒	保護者
肯定的意見	62.8%	65.4%	65.0%	55.2%
中間的意見	30.5%	30.9%	28.6%	38.9%
否定的意見	6.7%	3.7%	6.4%	5.9%

地域社会との連携に直接かかわる生徒の数は相対的に多くはないが、校内で園児の活動の様子を見たり、校外での活動を聞く場面があり、生徒の評価が一定しているのは活動が定着してきた結果と考える。
【自己評価△】

総合的な探究の時間での講演や、園児の活動、地域活動の広報など、藤井寺市をはじめ地域社会と連携を行っているということが実感しやすい環境にあり、比較的良い評価になっていると考える。

［自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見］

3．本年度の取組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導領域	【1】生徒の学習状況 (1) 教科会を活性化し、定期考査後のデータ分析による学習状況の把握を行い、以後の授業に反映する。 (2) 授業内に確認テスト等を行い、生徒の学習状況を把握する。 (3) 入学後のリメディアル教育、学力不振生徒の考査前の学力補充の体制を検証し、継続して実施する。 (4) 合理的配慮を必要とする生徒理解の研修及び、教務内規の改訂作業を継続する。 【2】教科・コースの教育活動 (1) 授業内容を精選し、授業規律を徹底する。 (2) 日常の授業を大切にする姿勢を教員・生徒が共に養い、チャイムと同時に授業を開始する習慣の定着や、出張等で生じる自習授業を時間割変更で削減する。	定期考査・模試の結果分析等に基づいた授業および補習内容の検討行い、見直した補習内容を実践する。 教科会・コース委員会・教務部等が連携し、指導方法の検証・検討を行うとともに、一貫性・系統性のある指導と均質な授業を行う。 放課後学習や長期休暇中の課題、有欠点者を対象に指名補習を行い、基礎学力の回復に努める。	公開授業と授業アンケートに基づく授業改善の実施を含む、教科会での指導方法の検討・考察 進路保障に向けた補習体制の強化 学力不振生徒への学力補充活動の実施 放課後を利用した学習活動の実施 自習環境の確保 教員間の連携、情報共有の徹底	公開授業を年２回実施した。同時期、生徒による授業アンケートを実施した。それらを基に教科会議を通じ、授業改善を図った。また、定期考査後に成績の分析を行うことで、指導内容や方法の確認を行った。それらを踏まえ、ICT を利用した授業や課題の実施等、適宜創意工夫を行っている。 教科・科目によっては中学の学び直しから高校の授業を始めたり、必要に応じ中学時の学習内容を確認したりする等の取組みを行った。夏期・冬期の休業中には、有欠点者に対し学び直しや学習の方法を教授する場として補習を実施。放課後学習や個別指導を通じた学力の定着を図る活動を本年度も実施した。特に定期考査前などは学年主体で有欠点者や低学力の生徒を指名し学習会を行うなど、学力の定着に努めた。 各コースにおいて適宜コース委員会を開催し、コース目標の達成に向けた取組みに関する課題を検討した。必要に応じて、各教科に対しても、コース目標の達成に向けた取組みや補習内容の検討を依頼するとともに、授業の改善に向けた実践に注力した。 また、1 年生は朝学の時間にスタディサプリを活用した。定期考査に向けての意識付けを含め、学習内容の定着を図る活動を行った。 しかし、結果としては、「分かりやすい」授業の実践や「学力の定着」についての肯定的な評価が減少した。生徒の学力が低下する中、授業の手法や学習内容の定着に向けた活動のあり様（ICT を利用した学習機会確保の研究や個別最適な学習に向けた方法）などの研究と実践を進める。
	(3) 各種検定の合格という成功体験が自己肯定感につながるということを教員が強く認識し、コースや学年の教員が積極的に支援を行い、合格率向上を目指す。	検定合格を視野に入れた授業の実践と補習を含めた様々な支援活動を実施する。	各検定に向けた取組みの実施	各種検定受検について、進路指導の観点を中心に生徒に伝えている。また、受検に向けた取組みとして、英語検定については、文理ハイレベルコースでは英検対策授業を設置し、その他のコースでは、本校教員による補習を行った。また、漢字検定については、教科から長期休暇中の課題を出したり、朝の学習時間にプリント学習を行った。全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験や情報処理検定については、放課後に補習を実施した。 しかし、検定結果が伴うものとなっていない。これが、今回の評価につながっていることもあり、今後、結果の向上が果たせる取組みが必要である。
	(4) ICT 機器を授業の効率化や生徒のモチベーションを高めるツールとして利用することに留まらず、リモート授業やグループワークにも活用し、個別最適な学びと協働的な学びの教育活動に繋げる。 (5) タブレットの利用を含め、導入済みの Classi やスタディサプリの利用を、教科、教員の偏りが出ないように、積極的に組織的な活用になるよう進める。	グループワークやリモート授業など ICT の効果的な活用により実現可能な授業のあり様を研究・実践する。 朝学等を利用したスタディサプリの活用を進める。 総合的な探究の時間での調べ学習やとりまとめのツールとして ICT 機器を積極的に使用する。	ICT を利用した個別最適な学びと協働的な学びの実現	総合的な探究の時間では、各コース・系統の目的に即した探究活動のプログラムを設定し、探究活動の充実を通し、主体的に学習活動に取り組む姿勢を育む活動を実施した。特に総合進学コースは、系統の目標に沿った探究活動のテーマ設定と、それに基づく探究活動の実施と研究成果の発表を行った。 また、本年度より実施された三高校合同海外語学研修プログラムに、3 年生 5 名と 1 年生 4 名が参加した。
	(6) 総合的な探究の時間のカリキュラムの充実に向けた検討と実践を行う。 高校企画室主導で実施の三高校合同海外語学研修プロジェクトに積極的に参画し、生徒の国際教育充実に向け検討を行う。	「総合的な探究の時間」のカリキュラムを充実させ、自己実現を図る動機付けを行う。 三高校合同海外語学研修プログラムに基づく活動を積極的に支援し、実施する。	「探究活動」の充実による幅広い学びの実践 三高校合同海外語学研修の実施	【教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている（2025 70.1%（生徒）74.1%（保護者））（2023→2025（生徒）71.6→73.9→70.1)】 【教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている（2025 65.9%（生徒）60.5%（保護者））（2023→2025（生徒）68.9→71.7→65.9)】 【教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている（2025 69.9%（生徒）66.3%（保護者））（2023→2025（生徒）70.7→73.8→69.9)】 【教員は、英語検定や漢字検定など将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している（2025 69.5%（生徒）69.7%（保護者））（2023→2025（生徒）70.7→74.7→69.5)】
生活指導領域	【1】基本的生活習慣の確立、規範意識の育成 (1) 教職員全員が協力して生活指導を行う意識を徹底する。 (2) 行事、集会などの機会を通じて、指導方針や校則を伝え、問題事象が起きないよう「予防的」な生活指導を行う。 (3) 校則遵守を徹底し、頭髪指導・身だしなみ指導の強化を行う。	校則遵守の意味を丁寧に説明し、自らの行為について生徒自身に考えさせる指導を行い、校則を遵守する必要があることを理解させる。	説明と納得、生徒自身の思考を基本とする丁寧な指導	各学期初めの頭髪指導や学年集会、ホームルームの時間を通じ生活指導部、担任が指導方針や校則について説明を実施するなど、繰り返し校則遵守について、生徒に話をしてきた。また、身だしなみ強化週間を通じた指導の実施の他に、指導が必要な生徒に対し適宜指導するとともに、継続的な指導を行っている。指導に当たっても基準の平準化を図り、不公平感のない指導を目指し活動を行った。さらに、指導を行った際は、保護者に連絡を入れ、説明を行うとともに協力を依頼し、学校と家庭が連携し指導するよう取り組んできた。結果として、生徒の評価は改善されており、今後も、生徒が自分の行いを内省できるよう、理解と納得を得させる指導の在り方を、引き続き検討・実践していく。

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生活指導領域	(4) 「挨拶」の大切さを説き、様々な場面で挨拶の励行を勧める。 (5) 目標値を設定し、遅刻指導を行い、登下校指導を計画的に実施する。 (6) 生活指導週間を設定し、頭髪、身だしなみなどの違反ゼロを目指す。 (7) 交通安全指導や性教育、薬物乱用防止など危機管理にかかわることやスマートフォンの安全な利用などのマナーにかかわることの講演等を行う。 (8) いじめの対応に向けて、学期ごとに全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見と解決に繋げる。 【2】帰属意識の高揚 (1) 生徒会を中心に、弁論・コーラス大会、緑涼祭などの行事を、生徒の企画・運営で実施する。 (2) 課外活動が活発に行えるよう、生徒会を中心にクラブ入部率を高める活動を行う。 【3】不登校生対策 (1) 不登校生等委員会を中心に不登校生や発達障害について生徒理解を深めていく。 (2) 1学期中間考査期間中に、身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。	校内外での積極的な声掛け・挨拶をする。 保護者とも連携し、生活指導部を中心に学年による指導を実施する。保護者に指導方針を明確に伝え、協力して指導にあたる。 現代社会における様々な問題や課題に対する理解を、校内での様々な活動を通じ進める。 いじめ対策委員会及び生活指導部でいじめアンケートを実施する。結果を教員全体で情報共有し、早期発見、解決を図る。 各行事を通して、生徒自身が考え、準備をするなど、生徒自身が活動していく場面が増えるよう支援を行う。 生徒の将来を第一に学年・部・委員会・スクールカウンセラーで連携を取りつつ、保護者と協力し支援を行う。	教員からの積極的な声掛け・挨拶の実践 指導が必要な時点で適切な指導を実施 保護者に対する指導方針の明確な説明と情報共有を実践 様々な社会問題等に関する教科・ホームルーム・行事等の活動、講演会の実施 いじめアンケートの実施と対応 いじめ対策委員会と生活指導部の連携 生徒自身の自主的・主体的活動の支援 クラブ紹介等の実施 担任・学年・管理職・養護教諭・カウンセラー間の連携と不登校生等委員会の定例化 専門機関との連携の実施 情報交換会の実施	登下校時などの挨拶や朝終礼、授業における声掛けを積極的に行った。 遅刻については各学年数値目標を設定し指導をしてきたが、特定の生徒が多く繰り返す状況を改善しきれず、目標達成は果たせなかった。一部の生徒が遅刻件数の多くを占める傾向は続いており、指導の内容・方法について研究、実践を行っていかなければならない。 【教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している（2025 69.5%（生徒）69.7%（保護者））（2023→2025（生徒） 68.1→72.7→69.5)】 【教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている（2025 70.1%（生徒）74.1%（保護者））（2023→2025（生徒）71.6→73.9→70.1)】 【学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている（2025 71.9%（生徒）66.3%（保護者）（2023→2025（生徒）63.5→68.5→71.9)】 現代社会における様々な問題については、講演会形式を中心に学習の機会を設けるとともに、朝終礼やホームルームなどの担任からの話を通し、理解を進めた。 朝終礼やホームルーム活動の際に生徒の反応や表情を丁寧に観察したり､必要に応じた個別相談の実施や､いじめアンケート結果を検証したりすることで、生徒の状況把握に努め、学年・分掌・教科担当等で共有を行った。また、保護者への電話連絡や家庭訪問などを通じ学校での様子の報告を行うとともに、家庭での様子を把握し保護者との共通認識を作ることにも努めた。こうした活動の結果、いじめの対応に関する肯定的な評価につながった。 【学校は､いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている(2025 65.3%(生徒)59.1%（保護者））（2023→2025（生徒） 61.8→65.9→65.3)】 【学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している（2025 67.3%（生徒）54.8%（保護者））（2023→2025（生徒）63.5→69.5→67.3)】 コーラス大会や緑涼祭文化の部の取組みは、生徒が自分と仲間の個性や価値に気づき、クラスで協働していく経験を得る機会となった。生徒の評価は自分自身の達成感や充実感の表れであろう。そして、そうした充実感を保護者が感じ取った結果として、保護者の肯定的評価の増加があると考える。今後も、行事を行っていく中で教員がどのようにクラスに関わり、生徒の主体性をどのように引き出していくのかを考え、特に否定的な層に対し､どのようにアプローチをしていくか､担任・学年団としての姿勢が問われている。 【緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している（2025 71.7%（生徒）82.1%（保護者））（2023→2025（生徒）68.6→74.2→71.7)】 【教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している（2025 62.6%（生徒）60.8%（保護者））（2023→2025（生徒）62.6→67.9→62.6)】 不登校生等委員会を定期的に開催し、不登校傾向のある生徒のみならず、様々な「気にかかる生徒」の状況について各学年と養護教諭、カウンセラー間で詳細な情報共有を図った。精神的な不安定さが身体的不調となって現れるケースが目立っており、担任・養護教諭が家庭と連携を取り、必要に応じてカウンセリングや専門医による治療も視野に入れながら対応した。また、必要に応じ中学校と連携し情報共有を行ったり、生徒への働きかけ等を行うなど、様々な形で生徒を支え、進級・卒業を目指した。
進路指導領域	【1】進路意識の高揚と進路実績の向上 (1) 1年次よりキャリアデザインマップを活用し、総合的な探究の時間やホームルーム活動を利用してキャリア教育や進路学習を確実に行う。 (2) 調理製菓科・普通科保育系進学コースには、インターンシップや保育体験などを積極的に取り入れる。	総合的な探究の時間やホームルーム、授業での活動が進路決定につながる指導計画を立案・実行する。 進路実現に向け、多様化する受験方法の周知を実施する。 インターンシップ・保育体験の企画を立案し、実施する。	総合的な探求の時間やホームルーム等における進路学習の実施 長期休暇中の補習や放課後における学習活動の充実 特別招聘授業の実施 インターンシップの実施	進路に関する様々な情報の提供は、ホームルームや総合的な探究の時間での講演といった形で実施し、具体的に進路決定に向けた事柄を伝えてきた｡特に総合進学コースにおいては、系統の選択のタイミングでもある1年次において、協定校を中心に多数の学校に情報提供をしてもらっている。 こうした活動を通じ、進学先は4年制大学が中心となり、学部学科も多岐にわたるようになった。受験方法も指定校・協定校による推薦入試と総合型選抜を軸としつつ、学校推薦型や一般型など学力を用いた受験方法と、多岐・長期にわたってきた。それに併せ、3年生向けの補習はコース別ではなく、受験科目や受験したい学校のレベルに即した編成で実施した。これまで以上に学力等で受験する生徒への組織的・継続的な指導が必要である。

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路指導領域	(3) 国公私立大学の専門学科推薦制度について周知し、一般選抜での受験にも積極的にチャレンジできるよう、進路相談や受験対策を行う。 (4) 就職を専門とする講座等を開設し、生徒に受講させ意識を高めるとともに、求人先の開拓を進め、多様な業種・事業所から選択できるよう努める。 (5) 大学入学共通テストについての分析を行い、教科、校務分掌、コース会議で対応を進める。特に、「情報Ⅰ」については、出題傾向などを精査し授業内容に反映させる。 【2】系列大学及び協定校との連携強化 (1) 大阪商業大学、神戸芸術工科大学の特色や魅力を高大連携の小論文講座やキャンパスツアー等で早期に伝え、系列大学を進路選択の柱として位置付ける。 (2) 協定校による特別授業の実施等を通して、各大学の特色を知ることで、進学実績の増加へと繋げていく。	受験に向けた学習や面接、各種書類の作成など受験方法に対応した対策を充実させる。 生徒の就職に必要な知識やスキルを向上させるための専門講座を実施する。 教科会による研究と大学入学共通テストに対応した授業・補習を実施する。 大阪商業大学や神戸芸術工科大学の魅力を伝えるため、キャンパスツアーの実施や高大連携の講義を実施する。	指定校･協定校の確保と協定校による出張講義の実施 受験方法の周知等情報提供と受験結果の精査 求人票の整理･資料化と情報提供の実施 面接を中心とした就職試験対策の立案と実行 大学入学共通テストの分析・検証の実施 授業・補習の実施 早期の紹介による意識付けとキャンパスツアーの実施 大阪商業大学･神戸芸術工科大学の教員による講義の実施	調理製菓科では、コースとしてインターンシップやマナー講座に伴う現場体験などの実施、現場のシェフによる授業の実施等、現場と学びの場をつなぐ活動を行っている。これらの経験をふまえ、就職希望先としてインターンシップ先や、同様の職種・業態を希望する生徒も増えており、キャリア育成でも効果をあげている。 また、保育系進学コースにおいても、1・2年生全員が5日間の保育体験に参加するとともに、地域の各種イベントに参加することで、授業での学びを実践に結び付け、自分の将来について考える機会としている。 就職時は、求人票を基に、進路指導部・担任で繰り返し丁寧な相談と、企業訪問を実施するなど、生徒の希望と企業とのマッチングを丁寧に行った。また、数度にわたる面接指導を通じ、生徒の意識の向上を図り、より確実な採用結果へと繋げることができた。しかし、調理製菓科の場合、高校求人を出していないケースも多く、求人票の送付まで時間がかかり、生徒本人・保護者が不安に感じることもあったので、粘り強く、求人票の依頼を行う必要は今後も続けなければならない。 大阪商業大学については、総合進学コースを中心に「総合的な探究の時間」における講義や課題の設定、2年生の大部分の生徒対象にキャンパスツアーを実施するなどの取組みを続けている。また、本年度は3年の教員向け説明会を行うなど、進学先の優先順位としては上位に位置付けつつ、指導を行ってきた。その結果、2025年度は16名の進学者数となり、毎年、在籍の5～10%の生徒が進学するようになった。これは、本校の進学先として認知された結果と言える。 【教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している（2025 71.0%（生徒） 69.2%（保護者））（2023→2025（生徒） 70.9→73.4→71.0)】
入試・渉外領域	【1】広報活動の強化 (1) 全教職員で募集活動を行うという意識を持つ。 (2) 本校の教育成果を来校者に伝えるために、募集行事に在校生を積極的に参加させる。 (3) オープンスクール・入試説明会の充実を図り、短時間でも本校の魅力が伝わるような工夫を行う。 (4) 南河内・中河内を中心に、近鉄南大阪線沿線の大阪市南部・奈良県中南部の中学校・学習塾にも積極的に訪問活動を展開する。 (5) 大阪商業大学・神戸芸術工科大学の系列校であることのスケールメリットを周知する。 受け入れ授業・出前授業の機会など中学校との接点を多く作り、信頼関係構築に努める。 (6) 塾対象説明会の実施や塾訪問の機会をつくり、塾との信頼関係構築に努める。 (7) 近隣だけでなく広範囲の中学校に、スポーツ特待生制度・クラブ奨学生制度を周知し、志願者増加につながる募集活動を実施する。 (8) 学校案内・HP・SNS・ポスターなどで本校の魅力、各コースの取組みや進路実績を伝える。	日々の教育が広報活動であることを教員が認識し、教育活動を実施する。 南河内･中河内を中心に、大阪市内南部、奈良県中南部の中学校、塾への積極的な訪問活動を実施する。 オープンスクール・入試説明会の充実を図り、適宜点検し、改善する。 大阪商業大学や神戸芸術工科大学の系列校であることの認知度を高める広報を実施する。 中学校からの受け入れ授業や出前授業の要請に対し、可能な限り対応、実施する。 塾対象説明会の実施と塾訪問の実施。 様々なツールを利用し、積極的な工法を行う。特に、HP や SNS 上でのタイムリーな情報発信を行う。	日々の教育活動の充実 中学校との連携実施と連携強化 受け入れ授業･出前授業の実施 計画的な渉外活動の実施 オープンスクールでの広報活動の充実 生徒を主役とした広報活動の検討・実施 コース別の広報の在り方（内容や方法）についての検討・実施 各種外部説明会への参加 近隣中学校及びその周辺、特に大阪市や堺市北部からの出願状況の分析 様々なツールを利用した広報活動の実施	職員会議等で教員に対し校長より、日々の教育活動の結果が生徒のあり様であり、その様子がそのまま広報活動となることを伝えていくことで、より一層日々の活動と広報活動がつながっていることを教員に意識してもらっている。 また、渉外担当の訪問時や、入学決定後に速やかかつ積極的に中学校と連絡を取ることで、生徒の情報の共有や指導における課題等を共有しつつ、生徒の成長を図るとともに、中学校の本校に対する信頼の熟成を図った。 オープンスクールは、コース別説明ブースでは在校生がコース説明を行い、教員が補足する形で実施するとともに、保護者会の協力を得て、在校生の保護者による説明ブースを設置した。また、系列校である大阪商業大学と神戸芸術工科大学のパンフレットの配布、入試等においてメリットがあることなどの説明を行った。 また、藤井寺市、羽曳野市、松原市の中学校を中心とした受け入れ授業、八尾市や大阪市の中学校を中心とした出前授業の要請に対し積極的に対応し、実施した。その結果、それらに参加したことをきっかけに、オープンスクールに来校する中学生も一定数出てきており、今後とも広報活動の一つの軸として展開していきたい。 HP や SNS 上での情報の更新を頻繁に実施した。学校行事や授業の様子、クラブ活動の報告など様々な情報を発信した。また、チラシやポスターは、イベントに合わせたものを作成し、各イベントの差別化や内容を更新することで興味関心をひくように意識し展開した。 こうした広報活動もあり、オープンスクールや入試説明会の参加者も増加し、受験者数も一定確保できたとともに、入学者数も定員（240名）を上回ることができた。今後とも、平素の教育活動を大切にしつつ、本校の魅力を効果的な方法で積極的に展開していきたい。 志願者数（2024年度入試→2026年度入試　556→564→650） 入学者数（2024年度入試→2026年度入試　186→214→262）

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
入試・渉外領域	【2】専願受験者の確保 (1) 各コースの特徴的な教育活動をアピールすることで専願志望者200名を目指す。 (2) スポーツ特待生制度・クラブ奨学生制度を利用して、スカウティングに注力する。 (3) 普通科保育系進学コース及び調理製菓科の充実した施設・授業内容を説明し、専願志望者増を目指す。 (4) 特待生制度について、広報を強化すると共に、中学校へ丁寧に説明する。	コース別に、特徴的な教育内容や施設等をアピールした広報活動の展開を行う。また、教員による説明以外に生徒による広報活動を積極的に展開する。 入試成績特待制度や在校生特待制度、スポーツ特待制度、クラブ奨学生制度など、多様な制度についての丁寧な説明を行う。		
教員の研修・研究領域	【1】教員の資質向上 (1) 時間講師も含めて全教員が行う公開授業を実施する。見学した教員のアンケートを教科担当者にフィードバックし、授業内容・方法の向上を図る。 (2) 夏期休暇中に全体研修会を実施し、教育力向上を図ると共に意識統一を図る。 (3) 外部の研修会への参加を積極的に勧め、参加後に研修会や教科会で報告し、情報を共有する。 学校評価アンケート（生徒・保護者）の結果を教員一人ひとりが受け止め、適切な目標設定のもと自己研鑽を行う。 (4) 大学入試問題を分析し、指導力の向上を図る。 【2】教員組織 (1) 教育方針を共通認識し、全教員が協同して教育活動ができる組織を目指す。 (2) 教員が安心して働くことのできる環境づくりを行う。 (3) 学校行事や施策の責任の所在を明確にした上で企画・運営を行い、各組織が目的に沿った総括を行う。	年 2 回の公開授業を実施し、アンケートや教科会等で授業についてのフィードバックを行う。 全体研修会や一部教員対象の研修会を計画的に実施する。 外部の研修会への参加の奨励を図り、参加者のみならず情報の共有化による教員の研鑽を図る。 学校評価アンケートを実施し、分析・評価を行う。 大学入試共通テスト・各大学の入試問題などを分析し、授業内容や補習の内容について検討する。	公開授業の実施 公開授業に対するフィードバックの実施 新任教諭・常勤講師対象研修会の計画的実施 全体研修会の実施 外部の研修会の紹介 外部の研修会への参加の奨励 学校評価アンケートの実施	6 月に第 1 回、11 月に第 2 回の公開授業を実施。6 月は情報端末を利用した授業をテーマに各教科一人が授業を行い、教科会で内容の検討を行った。11 月は全教員がそれぞれ 2 回授業を公開し、アンケートや教科会で意見交換・フィードバックを行った。しかし、学習領域の評価アンケートの結果を踏まえると、授業改善に果たした役割は限定的なものであり、公開授業の実施方法等についてのさらなる検討が必要である。 年間で 9 回、新任教諭・常勤講師対象の研修会を実施し、分掌の業務やクラス活動の実践報告についての研修を行った。このほかに 4 回の全体研修会を実施した。カリキュラムに関する意見交換や人権教育、スクールカウンセラーによる本校生徒の状況についての学びを行った。クラス活動の実践報告やカウンセラーによる研修、人権教育に関する研修は肯定的評価に一定つながっていると考える。 外部の研修は広報関係を中心に受講があった。広報活動の方法論等いくつか改善されている点もあり、共有は進んだと考える。

大阪緑涼高等学校「令和７年度　学校評価に係る外部評価者会議」議事録

日　時：令和８年９月 30 日（水）11 時 00 分～12 時 15 分
場　所：事務棟３階　第一会議室
出席者：

藤井寺市教育委員会	教育長	見浪　陽一
藤井寺市区長会	会　長	上田　裕彦
藤井寺市春日丘自治会	会　長	坂本　民雄
辛國神社	宮　司	伊藤　進
大阪緑涼高等学校保護者会	会　長	木本　丘子
大阪緑涼高等学校	校　長	好永　保宣
大阪緑涼高等学校	副校長	菊地　慎二
大阪緑涼高等学校	教　頭	渡邉　祐子
大阪緑涼高等学校	教頭補佐	岡本　典子
大阪緑涼高等学校	事務長	音川　圭美

進　行：教　頭　渡邉　祐子
記　録：事務室　髙橋　敏嗣、山﨑　かほる

〇自己紹介
本会議出席者より自己紹介を行った。

〇校長挨拶
本会議参集に対する御礼と、令和７年度のアンケートの結果を踏まえ、忌憚のない意見をいただき、本校の新たな学校作り等の参考にさせていただきたいと述べられた。

〇資料「令和７年度 大阪緑涼高等学校 学校評価」に基づき、菊地副校長より以下の報告が行われた。

1. 目指す学校像
学校法人谷岡学園の設置校である本校の建学の理念「世に役立つ人物の養成」に基づく、４つの柱を実現するため、目指す学校像として設定した。

2. 中期目標
目指す学校像に基づき、具体化したものを中期目標として示している。

3. 評価年度の取り組み内容および自己評価
全体的な特徴として保護者の肯定的意見が増加している。情報発信ツールである「さくら連絡網」を活用し、担任や学年団から発信している内容が、本校の取組みや活動を正確に直接保護者へ伝えることができていることが要因と考える。一方、学習に関するアンケートにおいて生徒の肯定的意見が減少した。

(1) 学習指導
・昨年度１学期の考査結果を受け、例年夏休み中に実施していた振返り学習を、２学期からは考査前に教科別で補習を実施したが、アンケート結果には反映されなかった。
・ICT 教育に関して、１年生は朝学としてスタディサプリを活用していたが、アンケート結果を見ると生徒たちの学力に合った学習活動ではなかったと推察され、改善が必要である。
・入学者の学力は、入試成績やベネッセ基礎学力テスト、考査の結果を検証すると昨年度と比べ下がっている。対策として放課後や考査前に教科別の補習を実施した。次年度以降は、他校の取組み等を参考に学習活動について検討する。
・生徒の学習状況においては、日々の授業を如何にわかりやすく実施するかが重要であるが、本校の生徒の学力が二極化している。中間層がなく、どの層に合わせて教育を展開するか、ICT 教育をうまく活用し、進めていく必要がある。
・検定については、簿記実務検定や英検ともに受検生が増加している。結果に繋がっていないのが、今後の課題である。通常授業の改善をしていく必要もある。

(2) 生活指導
・７割の生徒が肯定的な評価をしている。この評価に至るまで時間がかかったが、生徒指導部が基準を明確にし、粘り強く、生徒が理解しやすい指導をした結果であると考える。しかし、遅刻に

関しては、数値目標に届かない結果となった。一部の生徒に遅刻が集中しているが、そこをどう改善させていくかが課題である。

・いじめに関して、生徒の肯定的意見の増減はないが、過去と比べると改善している。保護者の肯定的意見が増加している点は、細やかな対応が評価に繋がったと考える。

・行事については、生徒の肯定的意見が少し減少したが、コーラス大会に保護者が多く出席したことで保護者の肯定的意見の増加に繋がったと考える。

(3) 進路指導

・進路相談については、生徒の肯定的意見が 7 割という結果に、丁寧な指導ができていると評価している。2025 年度は、就職が少なかった。調理師コースは、専門学校への進学、保育系進学コースは、保育系の短期大学への進学が多く見られた。今年度は就職希望が多い。年度によって傾向の変化がある。

・大学進学については、有名私立大学への進学を希望する生徒については厳しい結果となった。今後は、チャレンジのさせ方について検討が必要であると考えさせられた。

(4) 入試・渉外

・中学校へのアプローチを強化した。結果、受験生が増加し、入学定員を大きく上回った。

・普通科、調理製菓科ともに受験生が昨年度より 1.5 倍となった。

(5) 教員の研修

・外部研修への積極的な参加を促しており、特に広報活動や新人研修に重点を置いている。

・内部の研修については、公開授業を 2 回実施した。1 回目は教科別で実施し教科会へフィードバックした。2 回目は、全体で実施した。

○意見交換

菊地副校長からの説明終了後、外部評価者より、次のとおり質問・感想が述べられ、本校管理職と意見交換を行った。

・入学者が 50 人以上増加したことは素晴らしい結果である。入学生の学力の二極化については、 学び直し等取組みが必要であるが、結果として現れるのには時間がかかる。検証しながら継続していただきたい。

・生徒指導の生徒の肯定的意見の増加については、先生方の努力の結果である。子供はダメでは理解できない、なぜダメなのかを理解させることができていると思われる。

・探求活動については、変更される指導要領や AI の影響により、教員の高いスキルが求められる。教員の研修を積極的に実施されているようだか、研修で学んだことを実践に繋げることが重要である。

・最近、若年層の犯罪が目立つ。一方で 18 歳の選挙権などで大人として扱われるのが早くなる。現代の教育は大変だと感じている。専門的な知識や技能を身に付けて就職を目指す生徒、学力を身に付けて進学を目指す生徒など、進路希望はそれぞれ異なるが、人間として立派になる教育をしていただきたい。

・保護者の肯定的意見が 1 項目を除いて向上している。やはり、情報発信が大きな要素と考えられるが、これは情報発信の質・量についてよく検討されている結果と考える。

・生徒の学習面に関して肯定的意見が減少傾向であるとの説明であったが、進路については、丁寧な指導が生徒の希望する進路の決定に繋がったと推察できる。今後は、学習面で否定的な意見である生徒に対して、教育をどう届けるのかを検証し、今後の取組みに活かしていただきたい。

・学校行事であるコーラス大会を地域貢献に繋げ発信していくと学校のイメージアップに繋がるのではないか。

・渉外活動について、オープンスクールなどのイベントについて、生徒主体とし実施していることは素晴らしい取組みである。参加者には生徒が説明することで直接伝わる。継続していただきたい。

・校名変更後、知名度の向上が必須である。いかにして浸透させるのか、頑張ってほしい。

・子供の人口が減少しており、閉校する学校もある。進学校もあれば、専門的知識を習得させる学校もある。経営は大変である。公立への進学は減少し、私学への進学が増加するのではないか。

貴重な委員の意見に対し、校長が次の通り回答および、これから本校が目指す学校像について述べた。

本校は、承知のように様々な取組みを実施している。ただ、その取組みが体系化されていないことが問題と考えている。そのため、文部科学省の指示により、教育活動を一貫した体系的なものとするために定めたスクールミッション、スクールポリシーを踏まえ、さらには建学の理念を基盤に、本校が目指すグランドデザインを構築するとともに、学校全体を通して育成する資質・能力を明確化し、その育成状況を把握するためのルーブリックを整備することが重要である。
また、生徒指導の次のステップとして、事象が起きた際の対処的対応だけではなく、事象を起こさないための予防的対応が必要であり、生徒に対しそのような教育ができるよう教員のスキルを向上させる必要があると考えている。将来的には、メタ認知できる生徒を育成できる学校を目指したいと考えている。

最後に、進行の渡邉教頭から外部評価者へ貴重なご意見のお礼を述べた後、会議を閉会した。

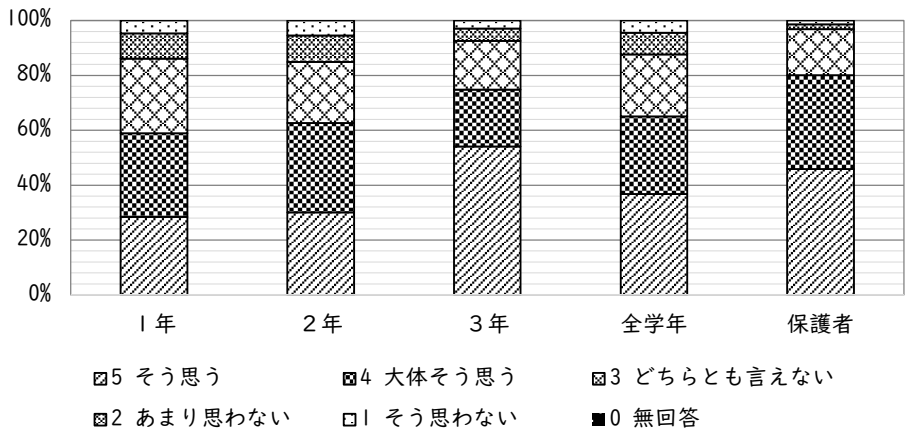
以上

2025年度　学校評価アンケート集計（設問は、保護者向けのものを使用しています）

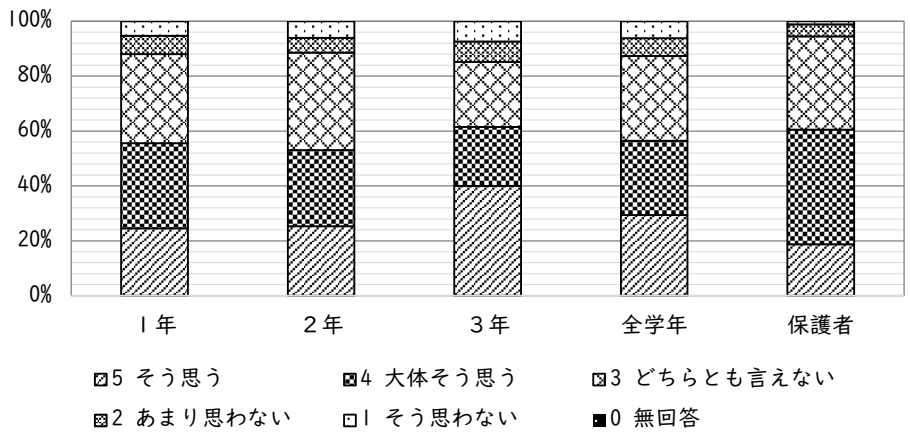
設問		学年	5 そう思う	4 大体そう思う	3 どちらとも言えない	2 あまり思わない	1 そう思わない	0 無回答	－	＋
1	あなたは本校に入学してよかった 子どもを本校に入学させてよかった	1年	28.5%	30.5%	27.2%	9.3%	4.6%	0.0%	13.9%	58.9%
		2年	30.1%	32.5%	22.3%	9.6%	5.4%	0.0%	15.1%	62.7%
		3年	54.1%	20.7%	17.8%	4.4%	3.0%	0.0%	7.4%	74.8%
		全学年	36.7%	28.3%	22.6%	8.0%	4.4%	0.0%	12.4%	65.0%
		保護者	45.8%	34.3%	16.7%	1.7%	1.4%	0.0%	3.2%	80.1%
2	学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている	1年	24.5%	31.1%	32.5%	6.6%	5.3%	0.0%	11.9%	55.6%
		2年	25.3%	27.7%	35.5%	5.4%	6.0%	0.0%	11.4%	53.0%
		3年	40.0%	21.5%	23.7%	7.4%	7.4%	0.0%	14.8%	61.5%
		全学年	29.4%	27.0%	31.0%	6.4%	6.2%	0.0%	12.6%	56.4%
		保護者	18.7%	41.8%	34.0%	4.3%	1.2%	0.0%	5.5%	60.5%
3	学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている	1年	47.7%	26.5%	19.9%	4.0%	2.0%	0.0%	6.0%	74.2%
		2年	45.8%	28.3%	21.1%	1.8%	3.0%	0.0%	4.8%	74.1%
		3年	51.9%	24.4%	19.3%	2.2%	2.2%	0.0%	4.4%	76.3%
		全学年	48.2%	26.5%	20.1%	2.7%	2.4%	0.0%	5.1%	74.8%
		保護者	53.6%	34.3%	9.8%	1.7%	0.6%	0.0%	2.3%	87.9%
4	学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	1年	31.8%	30.5%	32.5%	3.3%	2.0%	0.0%	5.3%	62.3%
		2年	35.5%	31.9%	28.9%	1.8%	1.8%	0.0%	3.6%	67.5%
		3年	50.4%	23.0%	19.3%	5.9%	1.5%	0.0%	7.4%	73.3%
		全学年	38.7%	28.8%	27.2%	3.5%	1.8%	0.0%	5.3%	67.5%
		保護者	33.1%	40.3%	22.5%	3.2%	0.9%	0.0%	4.0%	73.5%
5	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	38.4%	25.8%	26.5%	5.3%	4.0%	0.0%	9.3%	64.2%
		2年	39.2%	32.5%	24.7%	1.8%	1.8%	0.0%	3.6%	71.7%
		3年	49.6%	23.0%	20.7%	3.7%	3.0%	0.0%	6.7%	72.6%
		全学年	42.0%	27.4%	24.1%	3.5%	2.9%	0.0%	6.4%	69.5%
		保護者	34.3%	35.4%	25.1%	3.2%	2.0%	0.0%	5.2%	69.7%
6	教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている	1年	30.5%	33.8%	21.9%	9.3%	4.6%	0.0%	13.9%	64.2%
		2年	39.8%	30.1%	25.9%	1.8%	2.4%	0.0%	4.2%	69.9%
		3年	52.6%	24.4%	14.1%	6.7%	2.2%	0.0%	8.9%	77.0%
		全学年	40.5%	29.6%	21.0%	5.8%	3.1%	0.0%	8.9%	70.1%
		保護者	38.6%	35.4%	21.9%	2.3%	1.7%	0.0%	4.0%	74.1%
7	教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている	1年	29.1%	29.8%	30.5%	5.3%	5.3%	0.0%	10.6%	58.9%
		2年	32.7%	32.7%	27.9%	3.6%	3.0%	0.0%	6.7%	65.5%
		3年	47.4%	26.7%	18.5%	4.4%	3.0%	0.0%	7.4%	74.1%
		全学年	35.9%	29.9%	25.9%	4.4%	3.8%	0.0%	8.2%	65.9%
		保護者	24.8%	35.7%	34.9%	3.5%	1.2%	0.0%	4.6%	60.5%
8	教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している	1年	39.7%	28.5%	23.2%	5.3%	3.3%	0.0%	8.6%	68.2%
		2年	38.0%	28.3%	28.3%	2.4%	3.0%	0.0%	5.4%	66.3%
		3年	53.3%	21.5%	20.0%	4.4%	0.7%	0.0%	5.2%	74.8%
		全学年	43.1%	26.3%	24.1%	4.0%	2.4%	0.0%	6.4%	69.5%
		保護者	29.7%	40.1%	26.8%	2.3%	1.2%	0.0%	3.5%	69.7%
9	教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている	1年	37.7%	27.8%	27.8%	5.3%	1.3%	0.0%	6.6%	65.6%
		2年	40.4%	28.3%	27.1%	2.4%	1.8%	0.0%	4.2%	68.7%
		3年	54.1%	22.2%	20.0%	2.2%	1.5%	0.0%	3.7%	76.3%
		全学年	43.6%	26.3%	25.2%	3.3%	1.5%	0.0%	4.9%	69.9%
		保護者	25.4%	40.9%	28.8%	2.9%	2.0%	0.0%	4.9%	66.3%
10	教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している	1年	32.5%	35.1%	25.2%	4.6%	2.6%	0.0%	7.3%	67.5%
		2年	38.6%	28.3%	27.7%	3.6%	1.8%	0.0%	5.4%	66.9%
		3年	57.0%	23.0%	16.3%	1.5%	2.2%	0.0%	3.7%	80.0%
		全学年	42.0%	29.0%	23.5%	3.3%	2.2%	0.0%	5.5%	71.0%
		保護者	30.5%	38.6%	26.5%	2.3%	2.0%	0.0%	4.3%	69.2%
11	緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している	1年	41.7%	29.8%	19.9%	5.3%	3.3%	0.0%	8.6%	71.5%
		2年	42.2%	25.9%	25.3%	4.2%	2.4%	0.0%	6.6%	68.1%
		3年	51.9%	24.4%	15.6%	6.7%	1.5%	0.0%	8.1%	76.3%
		全学年	44.9%	26.8%	20.6%	5.3%	2.4%	0.0%	7.7%	71.7%
		保護者	43.5%	38.6%	14.2%	1.7%	2.0%	0.0%	3.7%	82.1%
12	教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している	1年	33.8%	26.5%	27.8%	7.3%	4.6%	0.0%	11.9%	60.3%
		2年	38.0%	22.3%	34.9%	3.0%	1.8%	0.0%	4.8%	60.2%
		3年	46.7%	21.5%	27.4%	2.2%	2.2%	0.0%	4.4%	68.1%
		全学年	39.2%	23.5%	30.3%	4.2%	2.9%	0.0%	7.1%	62.6%
		保護者	23.3%	37.5%	32.6%	4.6%	2.0%	0.0%	6.6%	60.8%
13	学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている	1年	44.4%	31.8%	17.9%	3.3%	2.6%	0.0%	6.0%	76.2%
		2年	39.2%	24.7%	26.5%	6.0%	3.6%	0.0%	9.6%	63.9%
		3年	54.1%	23.0%	14.8%	3.0%	5.2%	0.0%	8.1%	77.0%
		全学年	45.4%	26.5%	20.1%	4.2%	3.8%	0.0%	8.0%	71.9%
		保護者	31.4%	34.9%	26.8%	2.9%	4.0%	0.0%	6.9%	66.3%
14	学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている	1年	35.8%	25.2%	30.5%	6.0%	2.6%	0.0%	8.6%	60.9%
		2年	39.2%	25.9%	29.5%	3.0%	2.4%	0.0%	5.4%	65.1%
		3年	54.8%	15.6%	22.2%	4.4%	3.0%	0.0%	7.4%	70.4%
		全学年	42.6%	22.6%	27.7%	4.4%	2.7%	0.0%	7.1%	65.2%
		保護者	22.8%	36.3%	34.0%	4.0%	2.9%	0.0%	6.9%	59.1%
15	学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している	1年	36.4%	31.1%	26.5%	2.6%	3.3%	0.0%	6.0%	67.5%
		2年	40.4%	22.9%	30.7%	3.6%	2.4%	0.0%	6.0%	63.3%
		3年	50.4%	21.5%	22.2%	3.0%	3.0%	0.0%	5.9%	71.9%
		全学年	42.0%	25.2%	26.8%	3.1%	2.9%	0.0%	6.0%	67.2%
		保護者	18.4%	36.3%	39.2%	4.0%	2.0%	0.0%	6.0%	54.8%
16	学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している	1年	33.1%	35.8%	23.8%	3.3%	4.0%	0.0%	7.3%	68.9%
		2年	39.8%	23.5%	30.1%	3.6%	3.0%	0.0%	6.6%	63.3%
		3年	52.6%	17.8%	21.5%	5.2%	3.0%	0.0%	8.1%	70.4%
		全学年	41.4%	25.9%	25.4%	4.0%	3.3%	0.0%	7.3%	67.3%
		保護者	28.2%	35.7%	32.0%	3.7%	0.3%	0.0%	4.0%	64.0%
17	学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている（総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等）	1年	30.5%	29.8%	33.8%	3.4%	2.6%	0.0%	6.0%	60.3%
		2年	33.1%	25.9%	33.7%	5.4%	1.8%	0.0%	7.2%	59.0%
		3年	48.9%	21.5%	23.0%	4.4%	2.2%	0.0%	6.7%	70.4%
		全学年	36.9%	25.9%	30.5%	4.5%	2.2%	0.0%	6.7%	62.8%
		保護者	28.2%	37.2%	30.9%	2.9%	0.9%	0.0%	3.7%	65.4%

2025年度　学校評価アンケート　比較グラフ

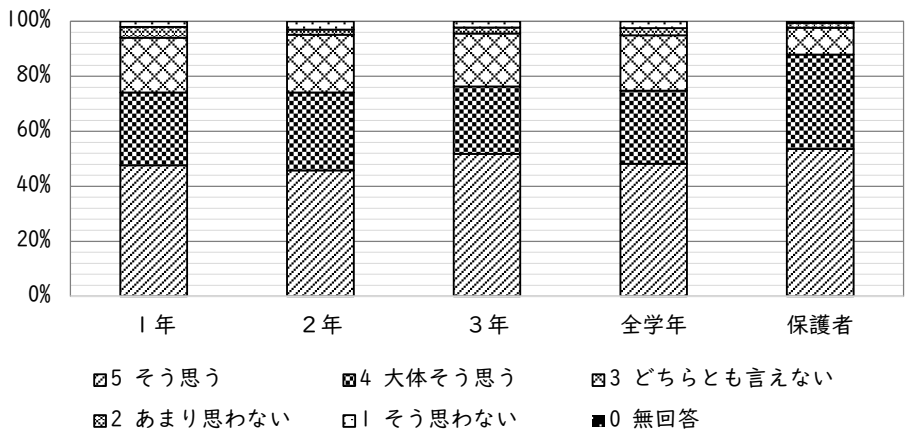
1. あなたは本校に入学してよかった
子どもを本校に入学させてよかった



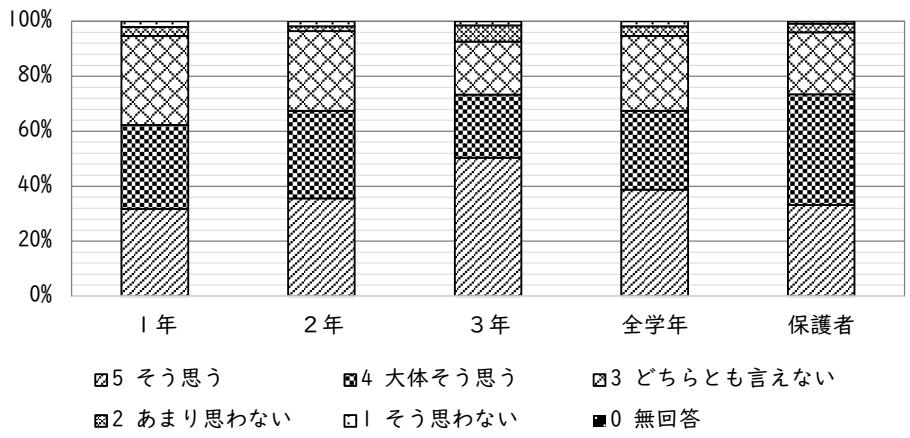
2. 学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に
反映させている



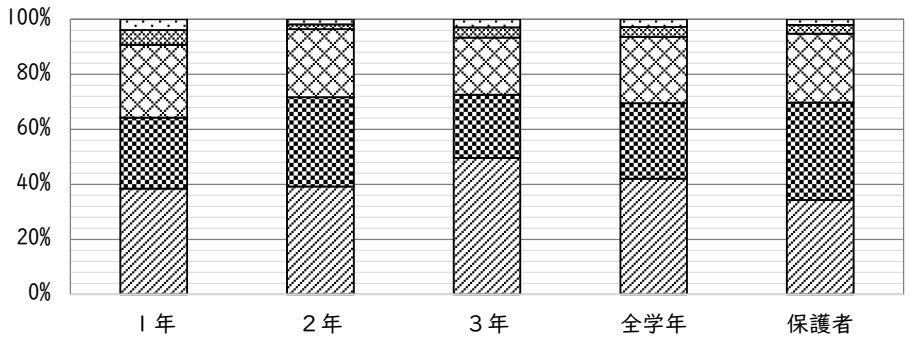
3. 学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者
への連絡や学校の様子をお知らせしている



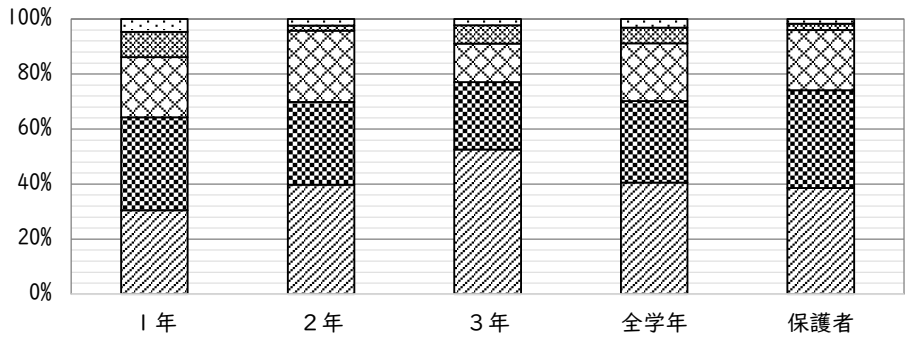
4. 学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健
康促進を促し、生徒の健康維持を支援している



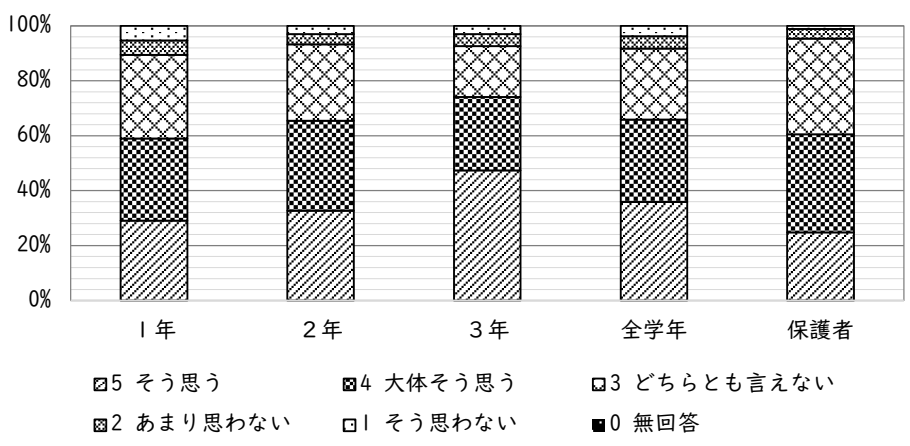
5. 教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報
伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に
活用している



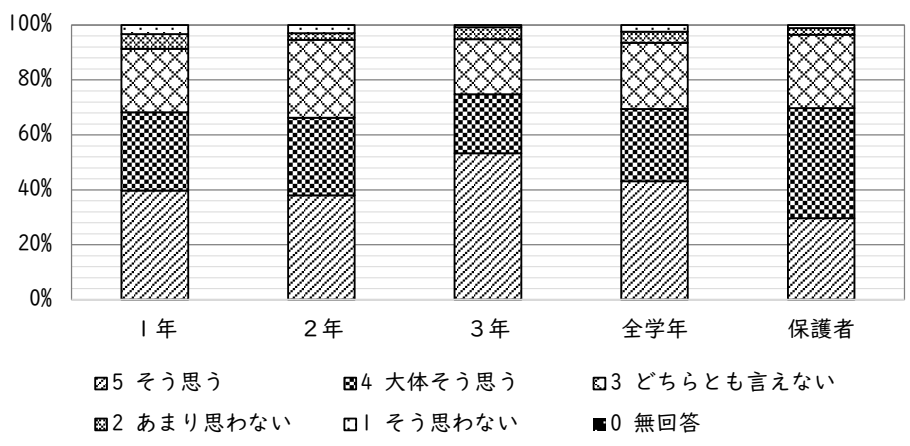
6. 教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に
応じている



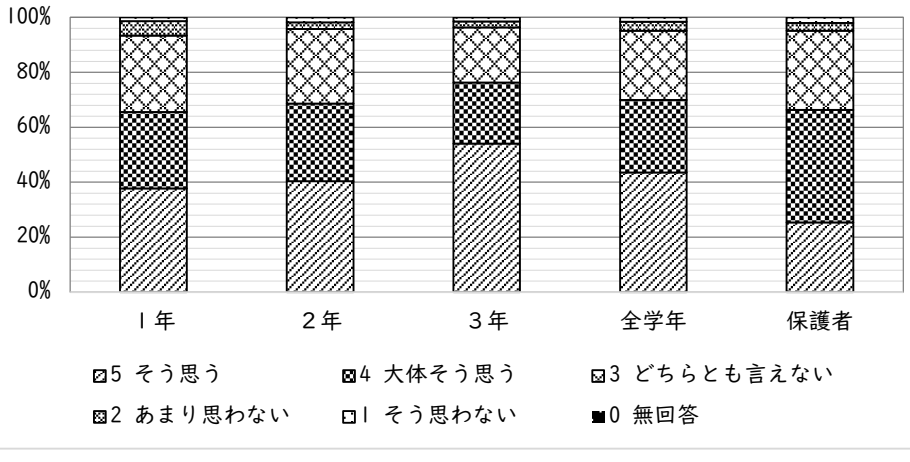
7. 教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に
沿った分かりやすい授業を行っている



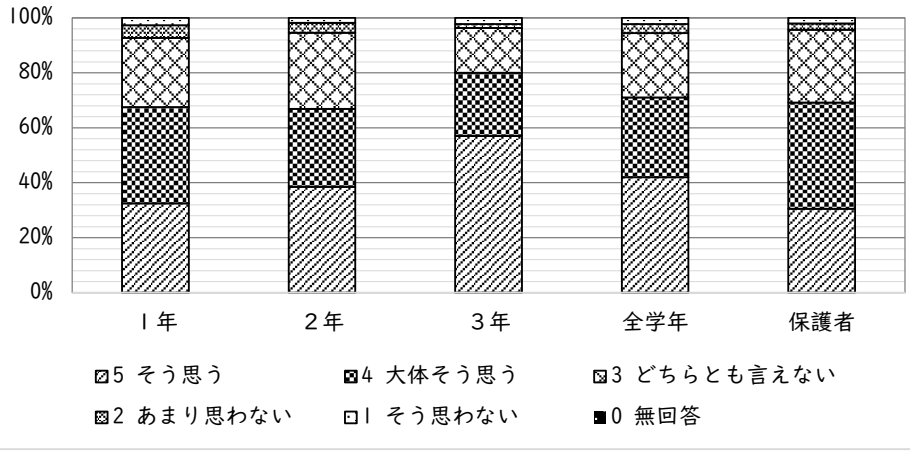
8. 教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供
し、取得できるように指導・支援している



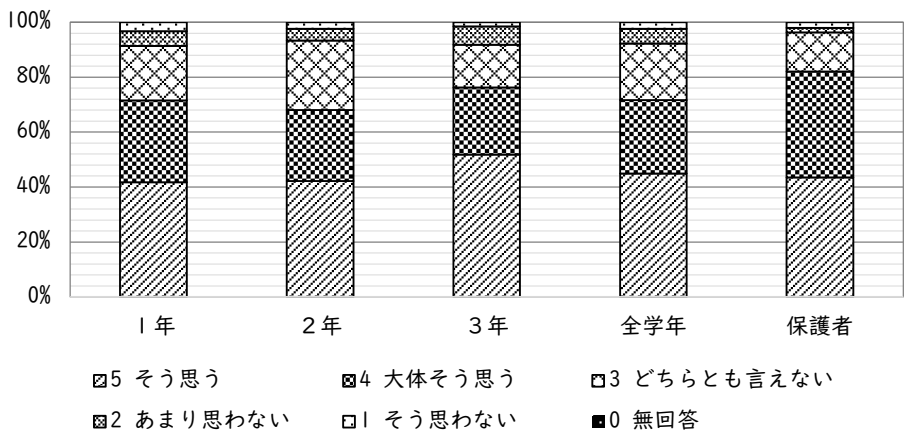
9. 教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、
補習や個別指導を行っている



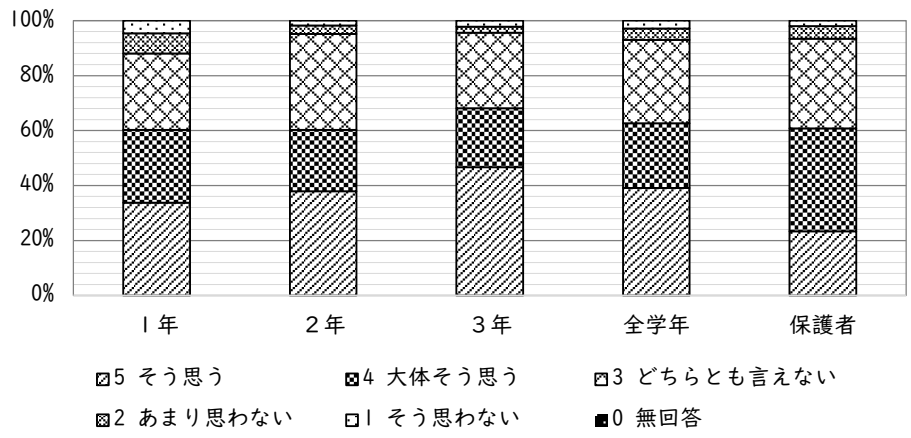
10. 教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を
提供し、丁寧に指導している



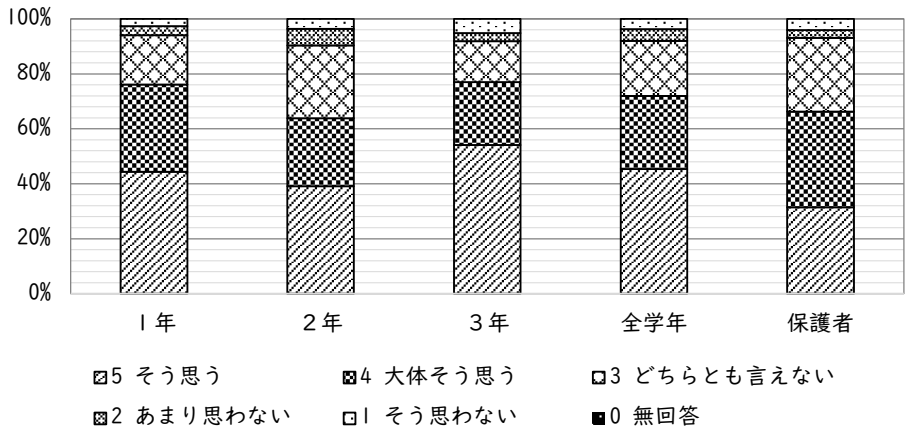
11.緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している



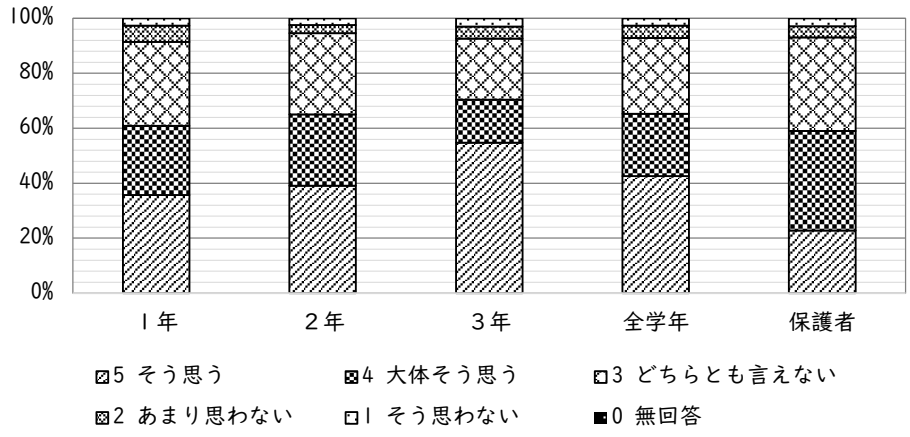
12.教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している



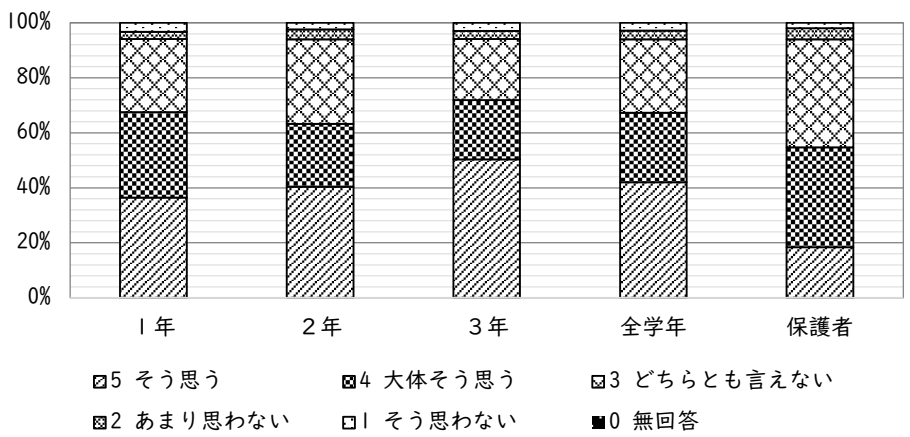
13.学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている



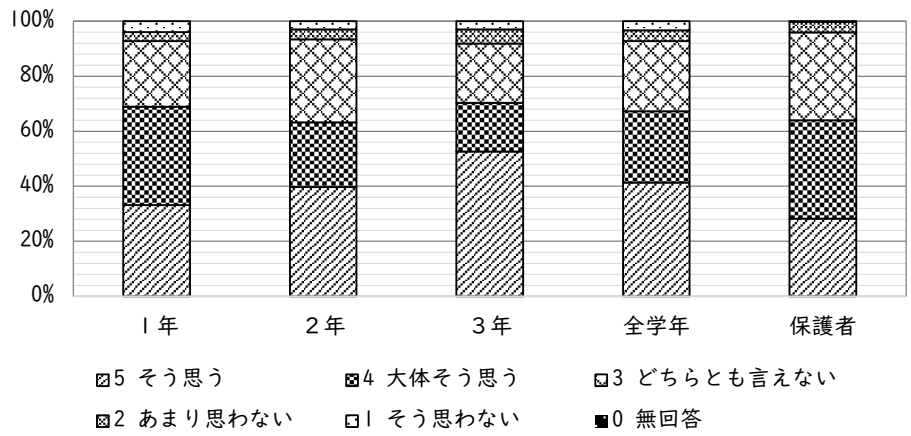
14.学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている



15.学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している



16.学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している



17.学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている（総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等）

